

AS AKRONTO・油圧ユニット処理報告書

油圧ユニットBEAVER III： 運転圧力の上昇 分解不要・通常運転のままの処理

AS AKRONTO、エストニア・タリン・機械設備保全責任者A.ロジオノフ；処理実施：AS T-Auten（V.タルエフ、A.カルリシェフ）

エストニア・タリン・2002年12月6日付報告書

製品

油圧装置再生用XADOゲル
作動油7 lに対し9 mlチューブ3本
・運転8 hごとの3段階処理

処理対象機

JSB社製油圧ユニット
BEAVER III
ユニットの油圧装置・作業装置：
油圧駆動式水ポンプ・定格圧力
138 bar

文書の種類

2002年12月6日付報告書
AS AKRONTOおよびAS
T-Auten

機械類	作業開始時の状態	測定項目
油圧ユニットJSB BEAVER III	圧力100 bar（規定値138 bar）	油圧装置の運転圧力
油圧駆動式水ポンプ	送水は可能、運転圧力の発生なし（0 bar）	ポンプ常設圧力計の指示圧力

処理は対象機を通常運転させたまま実施した。ゲルは運転8 hごとに3段階で投入した。

主な結果

↑ **20 %**

負荷時の油圧ユニットの運転圧力、100 → 120 bar

↑ **1 bar**

ポンプの運転用圧力計の指示値、0 → 1 bar

油圧ユニット：油圧装置の運転圧力

パラメータ	処理前	運転24 h後
油圧ユニットの運転圧力	100 bar	120 bar
定格圧力138 barに対する比率	72%	87%

測定は運転時の負荷下で行った。油圧ユニットは油圧駆動式水ポンプを駆動していた。定格圧力138 barは報告書本文に記載された値である。

作業装置：油圧駆動式水ポンプ

処理段階	ポンプ常設圧力計の指示圧力
処理前	0 bar
1本目のチューブのゲル投入から運転8 h後	0.5 bar
2本目のチューブのゲル投入後	1 bar

処理前のポンプは本来の用途に使用できない状態であった。送水はしていたが、運転圧力をまったく発生していなかった。

報告書の結論

AS AKRONTAおよびAS T-Autenの2002年12月6日付報告書は次のように記している。「実施した処理は、XADO技術が従来の修理方法に対して持つあらゆる利点を明確に示している。経済的指標の面でも（当該油圧ユニットの再生費用は**750**エストニア・クローンであった）、また機械がほとんど停止することなく作業を続けた点でも同様である。油圧ユニット自体に加え、油圧ユニットに接続された作業装置そのもの（本件ではポンプ）も再生される」。処理前のユニットの圧力は**100 bar**（規定値**138 bar**）であり、接続されたポンプは圧力をまったく発生していなかった。運転**24 h**後、油圧ユニットの圧力は**120 bar**（規定値の**87%**）となり、ポンプは**1 bar**に達した。報告書によれば、油圧ユニットが完全かつ最終的に再生されるまでには、通常運転でさらに**400～450 h**の運転を要する。

XADO

© XADO。無断転載を禁ずる。
本結果は、報告書に記載された条件における油圧ユニットJSB BEAVER IIIおよびこれに接続された油圧駆動式水ポンプに関するものであり、他の機械類では測定値が異なる場合がある。処理はAS T-Autenが実施した。報告書の原本は全文を公開しており、ダウンロードが可能である。